

2. ヤハズエンドウ（マメ科ソラマメ属）

Vicia angustifolia L.

2014年5月

通称カラスノエンドウといい、この呼び名が一般的です。身近な植物で、日当たりのいい道ばたや田畑、畦畔など、いたるところに生育しています。つる状の1年草あるいは越年草で、茎の長さは150 cmに達します。葉は偶数羽状複葉で葉軸の先端が巻きひげとなり、他の植物に絡みつき成長します。名前の由来は小葉の先端が矢筈状にくぼんでいるところです。花期は3月から6月で、小花柄に紅紫色の蝶形を数花付けます。まれに白色花もあり混生している場所もあります。

よく似た種類にスズメノエンドウ (*V. hirsute* (L.) S.F.Grey) があります。カラスに対してスズメは小さいことを意味しており、小型のヤハズエンドウの形態を示しています。さらには両種の中間型ともいえるカスマグサ (*V. tetrasperma* (L.) Schreb.) があります。和名はカラスとスズメの間の意味です。スズメノエンドウやカスマグサもヤハズエンドウと同じような環境に生育するありふれた植物ですが、似た3種類はあまりにも身近すぎて見過ごされてしまうので違いを認識している人はそう多くはないようです。

利用としては若芽や花、若いさやはお浸しやてんぷら、炒めもの、おすましの具などで食用になります。また、全草を乾燥したものは薬草茶になり、血行促進、利尿、解熱などに効果があるとされます。



ヤハズエンドウ



ヤハズエンドウ（白色花）



スズメノエンドウ



カスマグサ